

Kuakini Medical Center 臨床実習留学を経験した成果

【初めに】

佐賀大学医学部医学科 6年の深山莉紗と申します。2024年6月2日から6月28日まで、ハワイにて総合内科の臨床実習をさせていただきました。

<https://jabsom.hawaii.edu/globalhealth/> こちらのページの、一番下の International Observational Program というものに参加させていただきました。

【ハワイでの臨床留学に至った経緯】

私自身、元々海外に住んでいたこともあり、佐賀大学に入学した時から英語を使った海外での臨床実習に興味を持っておりました。5年生の7月に募集が行われ、運よく既に英語の応募資格を満たしていたため、スムーズに応募することができました。応募資格を満たしたのものから早いもの順に受け入れるようなので、これから応募しようという方は、前もって準備しておくことをお勧めいたします。今年に応募資格の目安は、TOEIC 945 点以上、英検 1 級以上、そして TOEFLiBT 96 点以上の取得が望ましいとされていました。

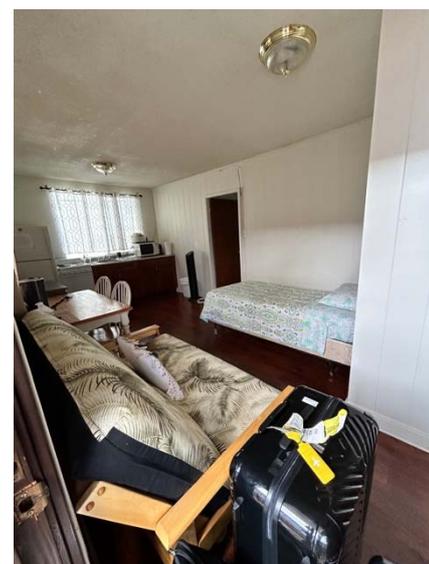
【日程】

2024年6月3日から2024年6月21日 クアキニメディカルセンター総合内科

2024年6月22日から2024年6月28日 渡慶次仁一（とけしじにち）先生のクリニックで外来

【住居について】

住居には、タオル、洗剤、食器、炊飯器、調理器具、ドライヤーなどの生活用品が揃っています。私が泊まっていた方のお部屋には、ベッドルームが一つと、リビングに一つベッドがあるといった感じでした。私はリビングの方のベッドで寝ることになったのですが、最初は慣れなかったものの、徐々に全く気にならなくなりました。病院は真隣にあり、徒歩5分もかからずに着くのでとても便利でした。住居で何か困ったことがあれば Paula Uchima さんに相談をすれば、なんでも丁寧に対応してくださります。



【クアキニメディカルセンターでの実習】(Kuakini Medical Center 以下 KMC)

KMC では、まず4つあるメディカルチームのうちいずれかに配属されます。1つのチームに、Upper Resident, Resident, Medical Student, International Observer がそれぞれ1人ずついます。日々の流れとしては、毎朝6時頃に call room (医局のような場所) に行き、カルテを開いて自分のチームの持ち患者

の血液検査の数値や overnight events などを確認し、それが終わり次第チーム全員で病棟回診に行くといったものです。回診では、一人一人の患者さんとしっかりお話をし調子を伺い、身体診察をしていきます。持ち患者が多いと、病棟回診をかなり急いですることになります。日によりますが、朝の 7:30 や 8:00 から指導医からレジデントに向けたレクチャーがあったり、学生向けレクチャー、実際にあった面白い症例をプレゼンしてみんなで臨床推理をしていく Case Report があったりします。これらが終わると、チームで持ち患者の Assessment/Plan を考えていきます。この時、Observer も大抵担当患者を割り当ててもらえるのですが、自分で今ある problem を考え、それらに対する今後の治療方針をある程度練って、レジデントに相談しながら決めていきます。チームとして一通りプランを話し合ったあとは、担当の Attending にプレゼンをしにいきます。Observer もプレゼンをさせてもらえるのですが、最初はものすごく緊張します。ですが、プレゼンする流れはある程度決まっているので、その書式に従って発表すれば大丈夫です。また、KMC では 4 日に 1 回 on-call day が回ってきます。この日は、自分のチームが救急患者の受け入れ担当となるので、普段の業務に加えてやることが多く、忙しくなります。

【渡慶次先生のクリニック】



渡慶次先生のクリニックでは、主に外来を見学します。本来であれば、朝 6 時から隣のビルにある Nursing Home でバイタルを測定したりするそうなのですが、私が実習に行った時は COVID-19 が流行っており、感染して欲しくないとのことでありませんでした。

毎朝 7:30 にクリニックへ行き、外来前に患者さんの問診をとり、その後渡慶次先生が実際に診察しているところと一緒に見る、といった流れで実習をしていました。渡慶次先生以外にも Medical Assistant の方が数人いらっしゃり、問診の取り方を優しく教えてくださいました。私は、初日から問診を取らせていただいております。中には日本人の患者さんもいらっしゃるのですが、そういった患者さんには日本語で問診を取っていました。また、外来の合間に隣の Nursing Home や、車で 15 分くらい離れたホスピスなどに訪問したりもしました。KMC とはまた違い、regular checkup の患者さんや、緩和ケアを受けている患者さん

を見ることができ、これもまた新鮮な経験となりました。

【留学を通して】

今回の留学を通して、アメリカでの医療のあり方、そして向こうの医学生のレベルの高さを目の当たりにすることができました。それと同時に、医学的な知識を学生のうちに身に付けておくことがいかに大切かを実感することができました。留学先で出会った医学生たちは、まだ医学部を卒業するまで数年あるにも関わらず、既に医師同様の責任感と行動力で実習に参加しておりました。やれと言われていたから実習をしているのではなく、熱意を持って自ら色々なことに挑戦し、実習に取り組んでおりました。私自身もその姿に感化され、日本に戻ってからも残りの実習を負けないくらいの意欲で参加しようという気持ちになりました。そして、座学で学んだ知識をいかに臨床に結びつけるかを日頃から考えながら学習をしようと強く思いました。

また、今回は 1 ヶ月のみの短い留学でしたが、医師として働き出してから再び海外留学をしたいとい

う気持ちがより一層強くなりました。きっと、学生とはまた違った視点で新しい学びがたくさんあるか
と思います。

【終わりに】

今回留学をするにあたり、面接や指導をしてくださった福森先生と小田先生、煩雑な事務の手続きを進
めてくださった木本様、実習のスケジュールを調整してくださった学生課の市山様、イレギュラーな日
程でも実習を受け入れてくださった各科の先生方、Paula 様、現地の先生方、以前このプログラムに参加
されていた南先生をはじめとする先輩方、そして何から何までサポートをしてくれた家族など、多くの
方々に支えられ、本当に実りのある最高の経験をすることができました。心より感謝を申し上げます。
今回の留学の経験から得られたものをこれからのキャリア、そして日本の医療に活かし、これから留学
をしようと考えている後輩の方々にも還元していきたいと思っております。

長くなってしまいましたが、最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

まだまだここには書ききれないくらいたくさんの経験ができたので、何か質問のある方は以下のアドレ
スまで気軽にご連絡ください。

lisaemerald522@gmail.com